





第2期行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況（R4年度末）

- 基本目標 1 産業を振興し、魅力的な雇用を創る【地域産業振興戦略】 P2
- 基本目標 2 地域の魅力を高め、人の流れと賑わいを創る【魅力アップ・賑わい創造戦略】 P7
- 基本目標 3 市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る【子ども安心育成戦略】 P11
- 基本目標 4 時代に合った活力ある安心な地域を創る【地域活力創造戦略】 P16

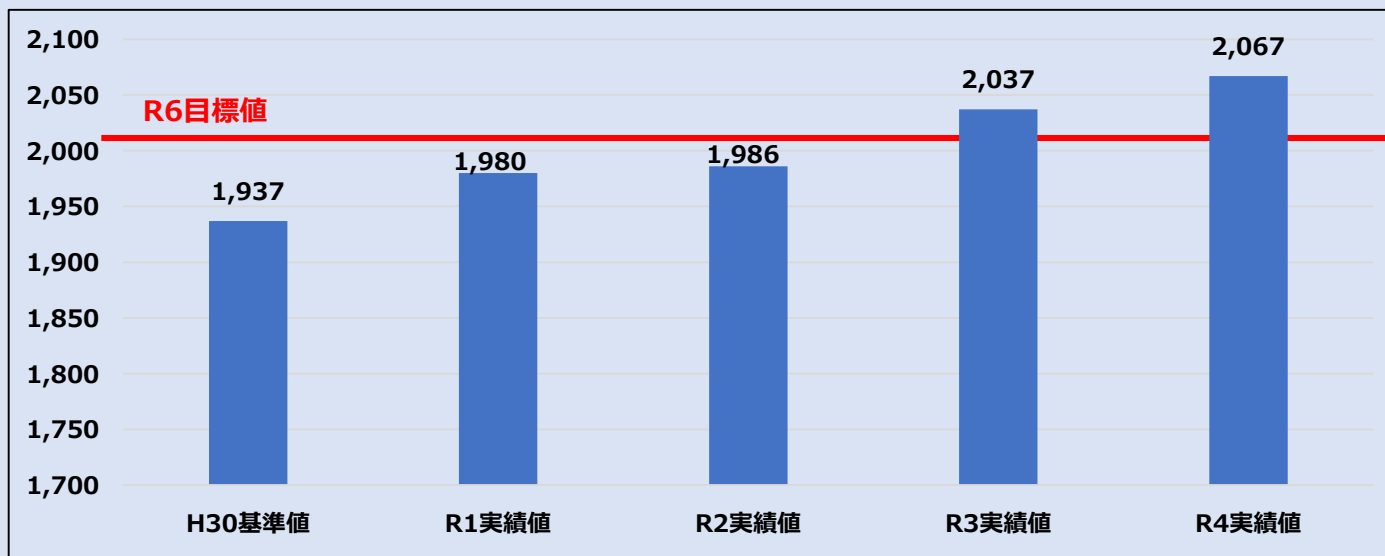
■凡例

種類	状況
	目標値を達成しているもの
	目標値は達成していないが数値が上昇(30%以上)しているもの
	数値が微増(30%未満の上昇)または横ばいに止まるもの
	数値が悪化しているもの

基本目標 1 産業を振興し魅力的な雇用を創る【地域産業振興戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	H30 基準値	R1	R2	R3	R4	R6 目標値	状況
市内企業数（※）	社	○	1,937	1,980	1,986	2,037	2,067	2,010	↑



※法人市民税均等割の納税義務者数

(1) 企業誘致の推進と雇用の創出

(2) 地元企業育成と起業・創業支援の強化

(3) 農業の担い手確保と成長支援

(1) 企業誘致の推進と雇用の創出

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 富士見工業団地拡張地区産業団地の整備促進
- ◆ 企業立地奨励金の交付（施設設置奨励金6件）

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
富士見産業団地拡張地区における雇用者数	人	○	—	—	—	—	—	250	—

C. 課題と今後の取組み予定

- 富士見工業団地地区拡張地区産業団地は、整備の過程で埋蔵文化財が発掘されたことから発掘調査に時間を要しており、現時点で分譲に至っていない
- 富士見工業団地拡張地区産業団地の早期整備に向け、引き続き県企業局と協議・調整を行う
- 企業立地奨励金は、R2年度に条例を改正しており、R3年度以降は富士見産業団地拡張地区産業団地への立地企業に対してのみ交付することとした

(2) 地元企業育成と起業・創業支援の強化

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 創業支援ワンストップ相談窓口
- ◆ 起業家支援事業補助金（5件交付）
- ◆ チャレンジショップ事業（1店舗）

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
起業・創業支援件数	件	○	—	3	10	16	21	35	

C. 課題と今後の取組み予定

- R4年度には、創業支援窓口で商工会議所との連携により5件の起業につなげたほか、起業家支援事業として5件の起業に対して補助金を交付するなど、順調に推移しているが、今後のさらなる利用促進のため、事業内容の見直しを検討し、事業の発展を図る
- チャレンジショップ事業は、忍地区で1店舗（物販店舗）を運営中であり、2店舗目の開拓に取り組む

(3) 農業の担い手確保と成長支援

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 農地中間管理事業
- ◆ 農地適格所有法人の育成支援
- ◆ 担い手育成支援（青年等就農計画作成支援・認定2件）
- ◆ 「攻めの農業支援事業補助金」によるスマート農業促進（8件交付）
- ◆ 行田ブランド農産物の育成支援（行田在来青大豆、行田在来枝豆）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
農地中間管理事業取組面積	Ha	○	209	284	340	386	487	380	↑
大規模ほ場(30a以上)整備率	%	○	31	31.2	31.8	32	32	32	↑
農地所有適格法人数	件	○	8	8	11	11	11	16	→
担い手育成支援件数	件	○	5	6	6	8	10	10	↑
攻めの農業支援事業取組数	件	○	8	13	16	25	33	26	↑
ブランド化推進品目	件	○	2	2	2	2	2	3	→

(3) 農業の担い手確保と成長支援

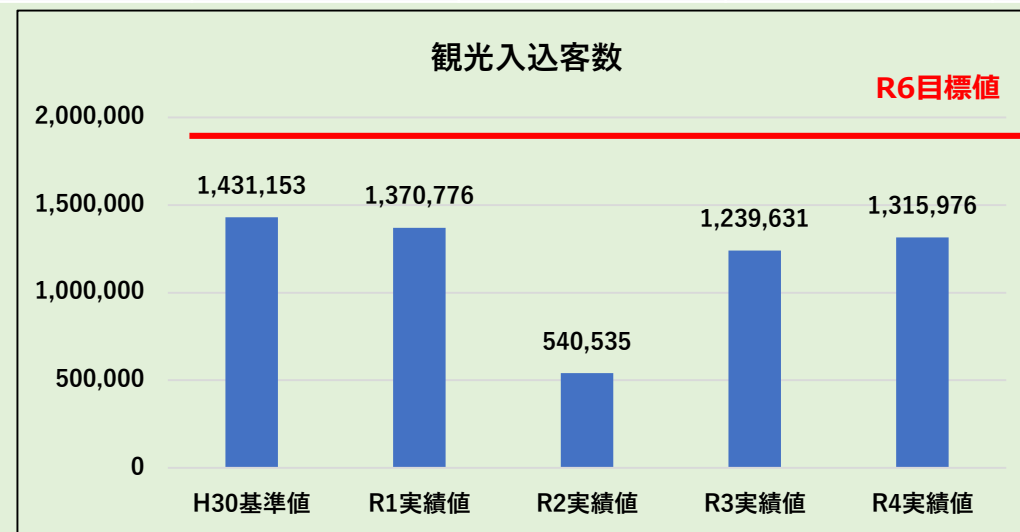
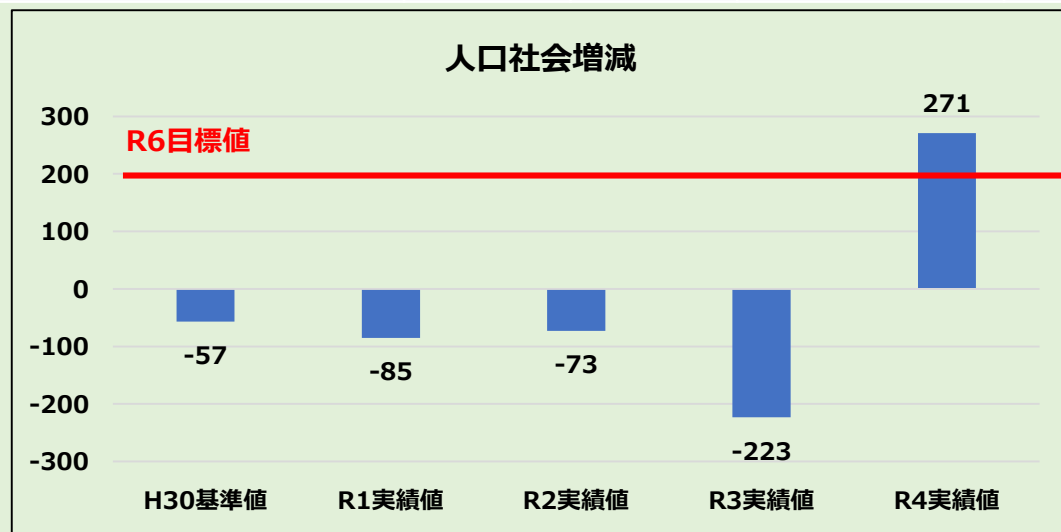
C. 課題と今後の取組み予定

- 農業委員が中心となり農地中間管理事業の活用を推進した結果、R4年度は取組み面積が大きく増加した
- 目標は達成しているが、ほ場整備事業に取り組んでいる地域等に対して、埼玉県農林公社を通じて事業説明を行い、取組面積の更なる拡大を図る
- 担い手育成支援事業は、引き続き相談を受け付け、加須農林振興センターなど関係機関と連携した支援を行う
- 攻めの農業支援事業補助金について、令和5年度は対象者や事業内容を拡充している。採択におけるポイント制の導入や翌年度以降の効果検証等を実施することにより、事業の有効性の向上を図る
- 行田ブランド育成支援として、「行田在来枝豆」及び「行田在来青大豆」の2種類があるが、知名度が低いことから、「行田在来枝豆」のブランド価値を上げ、本市の目玉商品となるように再ブランディングを行う

基本目標 2 地域の魅力を高め、ひとの流れと賑わいを創る【魅力アップ・賑わい創造戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
人口社会増減数	人		△57	△85	△73	△223	271	200	↑
観光入込客数	人		1,431,153	1,370,776	540,535	1,239,631	1,315,976	1,900,000	→



(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出

(3) 行田の魅力発信

(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 観光物産館さきたまテラスの整備（R5.4月オープン）及び行田のえだまめ餃子の開発・販売
- ◆ 団体型旅行促進事業（15,381人分を補助）
- ◆ 古代蓮の里にある観光案内標識の多言語化
- ◆ 花手水「ライトアップイベント 希望の光」開催（年10回：7～8月以外）
- ◆ 行田花手水week開催（年10ヵ月：7～8月以外）
- ◆ 市内3カ所において観光レンタサイクルの貸出
- ◆ フィルムコミッションロケ地調整（6件）

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
観光協会(DMO)ウェブサイト閲覧回数	件		499,491	377,733	976,246	1,653,327	1,601,958	550,000	↑
ぶらっと♪ぎょうだ売上額	円		13,349,875	9,465,107	8,103,220	41,884,528	55,447,517	20,000,000	↑
主要観光施設(※)入込客数	人		444,447	453,808	231,109	714,115	724,931	500,000	↑

(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

C. 課題と今後の取組予定

- さきたま古墳公園拡張エリアに、観光物産施設「（仮称）さきたま市場」をおもてなし観光局と共同整備し、令和5年4月1日にオープンした
- これまで市内約100ヵ所と協力体制を築き上げてきた『行田花手水week』や『希望の光』を基盤に、日本遺産忍城下町一体を“花手水タウン”とし、インバウンドの新たな事業として「花手水タウンプロジェクト」を実施する
- 神社やお寺を参拝した際に押印される御朱印の古墳版である「御墳印コレクション」を県内外の市町村と連携して、令和5年6月から開始した
- R5年度の田んぼアートのデザインは、埼玉県が題材となっている人気映画により実施し、多くの観光客を集客している。また、稲刈り体験も10月に実施予定である

(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 八幡通り沿線の修景整備
- ◆ 行田はちまんマルシェを毎週日曜日に定期開催

B. K P I (重要業績評価指標) の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
八幡通り歩行者通行量	人		—	1,240	—	—	1,859	1,370(R4)	
ふるさとづくり事業補助件数	件	○	13	13	18	24	24	30	

C. 課題と今後の取組予定

- R4年度に制度の全面リニューアルを行ったため、活用に向けたPRを行い、さらなる景観整備と賑わい創出を図る
- JR行田駅前広場について、賑わい創出のため試験的にキッチンカーやイベントスペースとして活用できるよう整備を図る
- 引き続き、八幡通りで、行田はちまんマルシェを毎週日曜日に定期開催する
- マルシェの運営方法等を見直すため、「マルシェの学校」「特産品のブランド化」「マルシェプロモーション」の3つの事業を主軸とした「マルシェリノベーションプロジェクト」を実施

(3) 行田の魅力発信

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 行田動画チャンネルへの新規動画掲載（11本）
- ◆ 移住定住パンフレット作成配布
- ◆ ふるさと納税促進（寄付件数6,137件、寄付額総額86,998,000円）

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
移住・定住ポータルサイトアクセス数	件		—	1,445	4,996	5,250	3,128	2,400	↑
YouTubeぎょうだ動画チャンネル総再生回数	件	○	143,012	183,581	252,269	326,684	364,229	320,000	↑
ふるさと納税寄付金額	円		21,600,000	27,151,000	31,000,000	54,079,500	86,998,000	35,000,000	↑

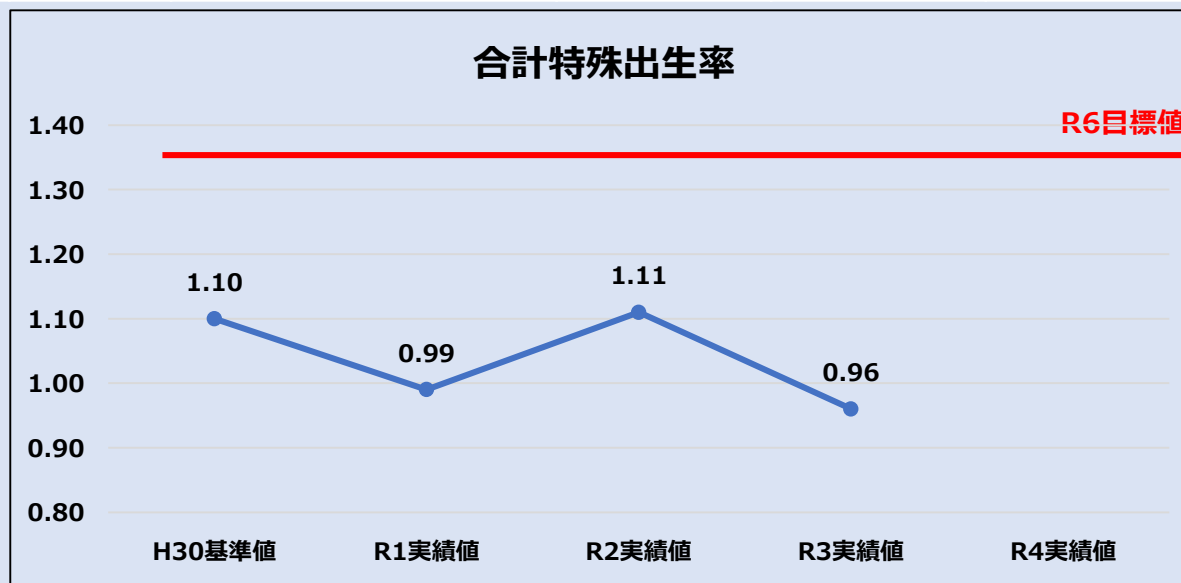
C. 課題と今後の取組予定

- YouTube動画の総再生回数は順調に伸びており、R4年度は日本遺産認定5周年を記念して、構成資産である「初午祭」の歴史や現在の様子を紹介した動画を投稿した。また、令和5年度は庁内に動画制作のプロジェクトチームを結成し、シティプロモーションを積極的に行う
- ふるさと納税のさらなる促進のため、返礼品が32品増え、さらにふるさと納税ポータルサイトを1社追加した
- 企業版ふるさと納税及びクラウドファンディング型ふるさと納税を活用した、本丸児童公園蒸気機関車修復事業を実施
- 移住定住パンフレットを刷新し、ふるさと回帰フェア等のイベントで配布しPRする

基本目標 3 市民が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る【子ども安心育成戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
合計特殊出生率			1.10	0.99	1.11	0.96	※	1.36	



※R4年度数値は今後公表予定

(1) 結婚・妊娠・出産・子育てのライフステージに応じた支援

(2) 子育てと就労の両立支援

(3) 行田の未来を担う人材育成

(1) 結婚・妊娠・出産・子育てのライフステージに応じた支援

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆不妊治療費助成事業（不妊治療34件、早期不妊検査9件、不育検査4件）
- ◆乳幼児家庭訪問事業（348件）
- ◆地域子育て支援拠点事業（7か所）
- ◆産科医等手当支給支援事業
- ◆4か月児健診個別健診事業（受診者数：363人）
- ◆こそだて応援訪問事業
- ◆子ども医療費支給事業

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
乳幼児健診受診率	%		92.06	91.7	95.8	94.90	95.50	98.00	
子育て包括支援センター相談件数	件		923	1,462	1,261	1,392	1,417	1,000	
地域子育て支援拠点利用者数	人		29,778	26,938	18,066	21,863	20,358	30,000	
こそだて応援訪問件数	件		10	8	2	0	0	10	

C. 課題と今後の取組予定

- ・ 健診の充実及び保護者の利便性向上を図るため、引き続き、4か月児健康診査を市内の指定医療機関で実施する
- ・ 子育て包括支援センターや地域子育て支援拠点のPRを行い利用を促進する
- ・ 新型コロナウイルスの関係で利用者が減少しているが、今後もこそだて応援訪問事業を実施し、保護者の子育ての不安感や孤独感の解消に努めていく
- ・ 不妊及び不育症に悩む夫婦の経済的負担を軽減するため、引き続き、不妊治療費助成を行う

(2) 子育てと就労の両立支援

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 保育所等延長保育事業（11保育園、1認定こども園）
- ◆ 幼稚園等預かり保育事業（市内8園、市外3園）
- ◆ 病児・病後児保育事業（対象年齢小学6年まで）
- ◆ 女性の活躍推進・キャリア形成支援セミナー
- ◆ 中学校給食費無償化事業
- ◆ ショートステイ事業、トワイライトステイ事業
- ◆ 放課後児童健全育成事業（19学童保育室）

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
保育所待機児童数(4/1時点)	人		0	0	0	0	0	0	↑
学童保育室待機児童数(4/1時点)	人		87	83	0	0	0	0	↑
女性のキャリア形成支援のための講座参加者数	人		107	117	111	17	62	120	↓

C. 課題と今後の取組予定

- ・ 今後も、延長保育や病児・病後児保育など多様な保育需要に対応した事業を実施する
- ・ 女性のキャリア形成支援講座として、就職支援セミナーや在宅ワーカー育成セミナー、パソコン研修、ヨガ講座など多様なセミナーを実施している。今後も参加者数増加のため、実施内容や広報の方法を検討する

(3) 行田の未来を担う人材育成

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 学力向上支援教員配置による複数指導
- ◆ 英語検定取得支援やALTの配置により外国語教育
- ◆ 体力向上推進委員会による体力向上だより発刊、県体力テスト分析と対策（改善検討）
- ◆ 早期療育事業「ステップ教室」
- ◆ 子ども大学ぎょうだの開校
- ◆ 教育環境の整備と充実

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
全国学力・学習状況調査で県平均を上回る科目数（小6）	科目		0/2	0/2	未実施	0/2	0/2	2/2	
全国学力・学習状況調査で県平均を上回る科目数（中3）	科目		0/3	0/3	未実施	0/3	0/3	3/3	
新体力テストで県平均を上回る種目数（小）	種目		38/96	35/96	未実施	48/96	60/96	96/96	
新体力テストで県平均を上回る種目数（中）	種目		35/54	33/54	未実施	27/48 ※	29/48 ※	48/48 ※	
小中学校における不登校児童・生徒数	人		小11 中68	小13 中81	小18 中88	小 32 中106	小 39 中132	小 7 中39	

※中学生の新体力テストは、R3年度以降種目数が減少したため、母数を減じている

(3) 行田の未来を担う人材育成

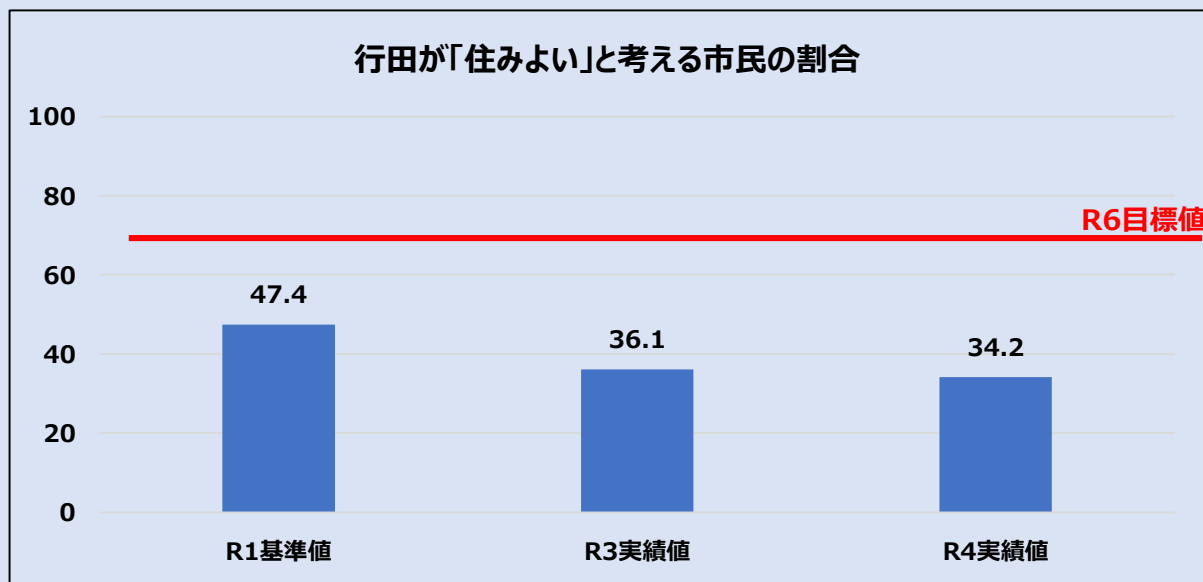
C. 課題と今後の取組予定

- 太田西小と太田東小を太田小として統合し、R5年4月に開校した
- 市立小中学校に市独自の学力向上支援教員を配置し、国語や算数、外国語（英語）の授業において複数指導（チームティーチング）や補習授業を実施しているが、R4年度時点で県平均を上回る教科はなかった。今後、ALTの効率的な配置を検討するなど学力向上を目指す
- 質の高い教育を充実させるため、義務教育の小中学校9年間を一体的に捉えることのできる小中一貫校、あるいは義務教育学校の創設を検討する
- 新型コロナウイルス感染症による学校や家庭での環境の変化などもあり、全国的に不登校児童・生徒が増加しており、本市でも同様に増加している。そうだんホットラインの設置や不登校対策担当チーム会議により、対策を実施する
- 小学校5年生、中学校2年生を対象として、年2回の学校集団アセスメント「Hyper-Q U」（学校生活に対する満足度や意欲、悩みなど児童生徒一人一人の心の状態を把握する心理テスト）を実施する

基本目標 4 時代に合った活力ある安心な地域を創る【地域活力創造戦略】

基本目標

指標名	単位	累計	R1基準値	R3	R4	R6目標値	状況
行田が「住みよい」と考える市民の割合	%		47.4	36.1	34.2	70.0	↓



(1) 時代に合った地域マネジメントの推進

(2) 地域コミュニティの連携強化



(3) 健康長寿づくりの推進

(1) 時代に合った地域マネジメントの推進

A. R4度を実施した主な事業

- ◆ デマンドタクシー事業
- ◆ 空き家等バンク制度の運用（登録1件）
- ◆ 公共施設マネジメントの推進
- ◆ 老朽空き家等解体補助事業（8件交付）

B. KPI（重要業績評価指標）の状況

KPI	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
市内循環バス利用者数	人		236,301	238,142	166,929	183,654	194,909	260,000	
デマンドタクシー利用回数	回		22,295	24,772	22,919	26,946	27,983	30,000	
問題空き家の指導による改善割合	%	○	40.86	48.48	54.97	56.95	56.07	50.00	

C. 課題と今後の予定

- 人口減少や高齢化に対応した持続可能な交通体系構築のため、R5年度中に行田市公共交通計画を策定し、市の公共交通網の総合的な見直しを行う
- 老朽空き家等解体に対する補助金制度に加えて、R4年度から新たに、空き家の利活用に対する新たな補助制度を開始し、1件活用した（高齢者ふれあいサロン及び放課後学習支援施設に改修）
- R5年3月に策定した、旧須加小学校及び旧北河原小学校に係る跡地活用計画に基づき、R6年度から利活用する民間事業者を選定する。
- R5年3月に閉校した太田東小学校の跡地活用について、サウンディング調査の実施や跡地利用計画の策定を行う

(2) 地域コミュニティの連携強化

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ いきいき元気サポーター制度（活動延べ人数1,674人）
- ◆ 支え合いネットワーク（19件）
- ◆ 自主防災組織リーダーの育成
- ◆ 自主防犯活動団体の設立及び育成支援

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
いきいき元気サポーター数	人		149	136	120	118	109	180	
支え合いネットワーク協定締結数	件		18	18	19	19	19	30	
防災訓練を実施している自主防災組織数	%		23.20	22.00	28.10	31.10	32.80	70.00	
自主防犯活動団体数	団体		165	168	168	168	168	175	

C. 課題と今後の取組予定




- いきいき元気サポーターはR4年度に9名が新規で登録したが、高齢化に伴いサポーター数の減少が課題となっている
- 地域の防災力強化に向けて防災士を育成するため、R4年度から行田市防災士養成講座を開始し、86名に補助を行った。
- 自主防犯活動団体は、高齢化により組織の解散も見られたことから、組織の合併を提案するなど、持続可能な体制づくりをサポートする

(3) 健康長寿づくりの推進

A. R4年度に実施した主な事業

- ◆ 各種健康づくり推進事業（薬局を拠点とした健康づくり事業、健康づくりチャレンジポイント事業など）
- ◆ 地域包括ケアシステムの推進
- ◆ 高齢者の社会参加の促進

B. K P I（重要業績評価指標）の状況

K P I	単位	累計	H30基準値	R1	R2	R3	R4	R6目標値	状況
健康教室等参加者数	人		2,597	2,774	1,164	1,022	1,475	6,000	
シルバー人材センター会員数	人		350	359	342	334	329	410	
高齢者総合相談支援件数（訪問）	件		1,891	1,971	1,901	2,423	1,885	2,500	

C. 課題と今後の取組予定

- 健康づくり促進のため、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことから、社会変化に対応した事業展開をしていく
- シルバー人材センター会員数は、企業の定年延長などにより新規会員の確保が難しくなっている。今後も、入会説明会の開催やパンフレットの配架等により会員拡大を図る
- 地域包括ケアシステム推進による介護予防の推進や生活支援体制づくりとともに、地域共生社会実現に向けた包括的な支援体制整備を進める